

四條畷市総合教育会議（平成29年度第1回）
会議録

四 條 畷 市

1 平成29年4月19日 午後1時 四條畷市役所本館委員会室において、四條畷市総合教育会議を開催する。

2 出席者

市長	東 修平
教育長	森田政己
教育長職務代理者	山本博資
教育委員	大村民子
教育委員	原 知 雅
教育委員	吉田知子

3 事務局出席者

理事	開 康成
調整監	藤岡靖幸
政策企画部長	坂田慶一
教育部長	西口 文敏
兼教育環境整備室長	
教育部次長	芝田孝人
兼学校教育課長	
教育総務課長	阪本律子
教育環境整備室上席主幹	木村 実
兼学校教育課人権教育・教科指導担当課長	
教育環境整備室課長	奥 大輔
建設課上席主幹	藤井 道幸
企画調整課	川崎有紀

4 会議録作成者

企画調整課	川崎有紀
-------	------

5 案件

(1) 今後の教育行政について

政策企画部長

それでは、定刻となりましたので、平成29年度第1回四條畷市総合教育会議を開催させていただきます。

本日は、去る3月1日の平成28年度第4回会議を経て、今後の教育行政、とりわけ、教育環境整備に関する事項について、市長と教育委員の相互理解、確認を行うため、お集まりいただきました。よろしく申し上げます。

また、本日は、今後の広報誌掲載等のため、秘書広報課の職員が写真を撮りますのでご了承ください。

はじめに、私から、前回の会議で共通理解された事項につきまして、3月号広報掲載の記事から再確認させていただきます。

8点あります。

まず1点目、現行のまちづくり長期計画は、超少子高齢・人口減少社会を前提としているが、今後、若い世代が移り住みたくなるまちづくりをめざしていく観点に立ち、まちづくり長期計画を見直すことに伴い、その短期部分にあたる教育環境整備計画を一部修正する。

2点目、1点目の方針に基づき、国道163号以南の地域活性化を考慮した場合、当初予定していた四條畷南中学校の廃校は、ただちに行うことはできない。

3点目、南中は土砂災害警戒区域にあるうえ、その区域内に活断層があるとされているため、南海トラフ地震の発生が予測されている現状において、地域の防災拠点としての南中の役割を考えると、その安全性を確認することが最優先である。

4点目、南中に通学する生徒に配慮しつつ、安全性を確認するため、平成29年度いっぱい南中を一時閉校または休校とし、生徒が校舎にいなくなった状態で、活断層の正確な位置を特定する調査を行う。

5点目、ただし、一時閉校または休校に伴う生徒の心理的負担をはじめ、遠距離化への対応や制服の問題などの諸課題については、引き続き、教育委員会で整理、検討し、予算を必要とするものは、議会との協議のうえで可能な限り対応していく。

6点目、活断層を調査した後の南中のあり方については、より良い教育環境として整備を図った形で改めて開校すること、あるいは、特定した活断層の位置によって、高齢者の方々のコミュニティスペースや子育て支援拠点としての整備などを含め検討する。

7点目、以上について、南中の生徒や保護者に対し、市長が直接

<p>市長</p>	<p>伺い、理解を求めていく。</p> <p>8点目、今後の小学校再編のあり方については、1月25日の総合教育会議で確認した3つの課題を解消する方向で進めていくものの、市長就任直後から積み重ねてきた現地視察や関係者方々との意見交換に加え、近々に予定している幅広い年齢層に対してのアンケートを通じて、これまで同様に、市民の皆様の思いや考えを伺っていく。以上です。</p> <p>続きまして、市長から、本日検討すべき事項等を含めまして、挨拶を申し上げます。</p> <p>本日はお忙しいなか、貴重なお時間を頂戴し、総合教育会議を開催させていただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>私が市長に就任してから3回目の開催となります。1回目の1月25日では、まちづくり長期計画に対する全体的な考え方をお話しさせていただきました。2回目の3月1日では、まちづくり長期計画の短期計画部分にあたる教育環境整備において、計画が差し迫っている中学校の部分について、特に議論させていただいたと思います。</p> <p>そして、平成29年度としては1回目、市長に就任してから3回目の今回は、中学校部分もお話しさせていただくとともに、小学校部分についても議論させていただければと思っています。</p> <p>まず小学校部分については、議会でもご説明いたしました、より多くの幅広い方の意見を伺うということで、アンケートについて進めていきます。内容については、教育委員会で練っていただきたいとお話ししておりました。これが1点目、小学校部分についての案件です。</p> <p>続いて、中学校の部分につきましては、3月1日時点では、南中学校は、一時閉校または休校という形で進めていくということでした。この点について、専門的な見地からはどのような結論に至るのかということと、それによって生じる諸課題についての議論があります。これらの結論あるいは方向性について本日はお話しできればと思っています。よろしく申し上げます。</p>
<p>政策企画部長</p>	<p>市長から、本日の会議内容について3点ご提案がありました。</p> <p>1点目は、小学校との検討にあたってのアンケートについて、内容も含めた報告。</p> <p>2点目は、南中学校の一時閉校または休校の判断について、教育委員会からの報告。</p>

<p>教育長</p>	<p>3点目は、一時閉校または休校に伴う生徒の心的負担をはじめ、遠距離化への対策等、諸課題についての整理内容及び意見交換。</p> <p>以上3点についてです。</p> <p>それでは、まず1点目の小学校再編のあり方の検討に関するアンケートについて、去る4月12日の教育委員会臨時会での議論を経て決定されたということですので、教育長からご報告をお願いしたいと思います。</p> <p>お手元の「四條畷市教育環境整備に関するアンケート」実施要領をご覧ください。実施主体は教育部教育環境整備室でございます。対象は年齢区分を20～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳、60歳以上とし、各ブロックで1000人、合計5000人とさせていただいております。</p> <p>内容については、緑色の用紙の表面に依頼文章と現状の計画概要を、裏面には平成28年度第3・4回総合教育会議の概要を掲載しております。もう一枚の、A4のアンケート回答用紙の両面に設問を掲載しております。</p> <p>アンケートの設問内容については、回答用紙をご覧くださいと思いますが、計6問の設問がございます。回答時間は約10分を想定しております。回答のしやすさに力点を置き、回収率を上げたいという意図でこのようにしております。</p> <p>項目につきましては、回答者ご自身について問うもの、それから1番から6番までの設問で構成しております。以上です。</p>
<p>政策企画部長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>教育長から、アンケート内容についての報告がありました。</p> <p>アンケートに関しまして、何かご意見等ありますでしょうか？</p>
<p>市長</p>	<p>今、ご説明いただきましたとおり、回収率を上げるということは非常に重要だと考えています。やはり一般的に設問数が多くなれば多くなるほど回収率が下がっていきますので、適度な多さであることは重要だと思います。回答時間が10分くらいというのは、目安としては良いのではと感じます。</p> <p>ただし、アンケートで幅広い意見を聞かせていただきたいということが今回の趣旨ですので、アンケートの結果内容をもって多数決で決めるというようなものではないと私は思っています。やはり結論には色々な事象が伴ってきますので、それを検討するにあたってのベースとしてアンケートを位置づけるというように考えていま</p>

<p>教育長</p>	<p>す。</p> <p>そしてやはり、地区や年代によっても考えが違うということ、地区の方や保護者の方と実際にお話しする中でまさに感じていますので、このように地区や年代で分けていただいているのであれば、そういった面も結果として現れてくるのではと思っています。</p> <p>資料によると、アンケートの回答期限が5月22日ということですが、これには何か意図があるのですか。</p> <p>あまりにもタイトな日程ですと回収率に影響が出ますので、回答期限に余裕を持たせております。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>5月号の広報誌に是非掲載していただきたいということで5月22日となりました。ホームページへの掲載だけでは見ていただける人に限りがありますので、広報誌でしたら幅広い方に周知できるという考えです。</p>
<p>市長</p>	<p>広報誌が配布されて1週間くらいは余裕があるということですね。</p>
<p>山本職務代理者</p>	<p>当初は5月22日ではなく、その前の週の金曜日を期限とする案だったのですが、仕事を持っておられる方などには土日があつたほうがいだろうということで、集計等については事務局のスケジュールが大変かとは思いますが、なんとか月曜日にしてもらえないかということでお願いしました。</p>
<p>市長</p>	<p>可能な限り回収率を上げていくという観点でということですね。</p>
<p>山本職務代理者</p>	<p>先ほど市長がおっしゃったアンケートの理念についてですが、私もその理念には賛成でして、ここで多数決ということは考えていません。というのは、教育環境整備計画をつくる時に、こういう形でのアンケートというのは実施していませんけれども、色々な場で市民の方々の意見を出来る限り伺い、まとめてきたという経緯があります。その時とはまた違う形の意見が聞けるのではと思いますので、両者を総合的にすり合わせて、次の計画に活かせればと考えています。市長のおっしゃった理念はそのとおりだと思います。</p>

<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>もう一つは、アンケート回答用紙の表面の一番下の部分で、「平成27年3月に策定した教育環境整備計画についてどのくらい知っていますか」という設問があります。この設問は非常に意味がある問いだと思います。賛成するにも反対するにも、よくわからないけれどもイメージで反対するとか、イメージで賛成するといったことがあるのかと思います。本当に中身を見て具体的な意見が出てきているのか、中身はよくわからないけれどもなんとなく反対なのか、それによっても、最後の自由記述のところの意味合いが変わってくるのでしょうか。</p> <p>また、「わからない」の割合が高かったのであれば、やはり周知についてももう少し工夫していく必要があるのではないか、というように、色々な見え方が考えられると思いますので、この設問が一つあるだけで大きいのではないかと考えています。</p>
<p>政策企画部長</p>	<p>続いて、報告事項2点目の、前回に確認した南中学校の「一時閉校または休校」の教育委員会としての判断についての報告をお願いします。</p>
<p>教育長</p>	<p>3月1日の総合教育会議の中で市長と共通理解に至った内容については、冒頭でご説明いただきましたので割愛いたします。</p> <p>3月29日に教育委員会定例会があり、「一時閉校または休校」ということで正式に審議いたしました。あわせて、一時閉校または休校に伴う生徒の心的負担や遠距離化等の諸課題について議論し、整理・検討することといたしました。それから、小学校の再編について、幅広い年齢層に対してアンケートを行うということ、以上3点について議論いたしました。また、先ほど3月1日の総合教育会議で共通理解された事項として挙げられた8点目、教育環境整備計画の一部修正についても決議されたところでございます。</p> <p>このような形でしたが、「一時閉校・休校」と併記する形では生徒や保護者の不安を助長する恐れがあるため、これは早期に決定する必要があるのではないかとということで、4月中に一定の方針を出すことにいたしました。</p> <p>そこで、先日4月12日に教育委員会臨時会を開催し、「一時閉校または休校」について審議いたしました。</p> <p>3月29日以降、色々と調べていく中で、一時閉校と休校の間に大きな相違点はないのではないかとということで、休校という結論に至りました。</p>

<p>政策企画部長</p>	<p>その理由の一つとしては、言葉から受ける一般的な考え方から「休校」が良いのではないかということ、また、教職員の人事面においては一時閉校・休校のどちらをとっても大きな影響はないということ、そういった諸々の点や、活断層の調査など今後のことを考えて休校という考えに至った次第です。</p> <p>この臨時会では併せまして、休校という言葉が決定し、平成30年4月には、それに伴う諸課題が考えられますので、そのことについても議論いたしました。そしてもちろん、先ほどの小学校再編に関するアンケート調査の内容についても検討いたしました。以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>教育長から、教育委員会として、四條畷南中学校については「休校」での対応との判断がされたとの報告がありました。</p> <p>休校の判断に関連して、何かご意見等ありますでしょうか？</p>
<p>市長</p>	<p>大きな違いはないということですが、一時閉校または休校という判断の中では、教職員の配置がどうなってくるかということが一番のポイントになってくるかと思います。</p> <p>「大きな違いはない」と「違いはない」というのは全く違うことだと思うのですが、「大きな違いはない」というのは「ほとんど違いはない」という意味なのか、「まったく違いはない」という意味なのか、どちらでしょうか。</p>
<p>教育長</p>	<p>私はかつて教職員人事を8年間経験しておりましたが、教職員人事において、その言葉によって左右されるということはない、ということで、そういう意味では大きな違いはないという意味です。</p> <p>ただ、人事というのはその都度、前年度の教職員配置、生徒の規模、あるいは加配がいくらであるか、あるいは支援学級の生徒が何人いるか、そういったことによって微妙に変わってきます。そういう意味での大きな、ということで、正確なところは詰めていかないと決まらないものなのです。言葉の判断によってどちらか一方に偏るといったものではないということです。</p>
<p>市長</p>	<p>私が聞いたかったのは、休校ということは「学校のすべての授業を休みにすること」とあるのですが、休みにするだけで、例えば先生は在籍しておかなければいけないといったルールがあるわけではないのですか、ということです。</p>

教育長	生徒がいなくなった時点で先生はいないということです。
市長	学校は存在しているし、授業は休みということですが、生徒がそこにいないのだから先生がそこに張り付いている必要はない、ということですか。
教育長	そうです。
山本職務代理者	<p>補足させていただきます。前回教育委員会で申し上げたことを言いますと、3校が2校になり、先生が異動することになりますと、中学校は教科がありますので、先生方が持つておられる時間数にもよりますけれども、同じ教科で異動されるとダブっているということがあります。そのような中で、果たして全ての先生がそのまま四條畷の市立中学校の先生でいられるのかという質問をいたしました。</p> <p>本日、定例の教育委員会の中で事務局から、クラス数についてはあまり変わらないので、そう大きな異動はないだろうというお返事をいただいています。</p> <p>ただ、3校が2校になりますので、一般的に言えば結構な数の先生方が余ってくるのではないかと考えられます。そうすると市費ではなく府費で賄っていますので、やはり異動などは考えられるのではないかと個人的には思います。</p>
市長	3校だったのが一時的に2校になるということで、学校数が減ることによる多少の影響はあるけれども、クラス数としてはあまり大きな差異はないので、そこまで大きな変化はないと、クラス数が変わらないということはコマ数も変わらないということだからですね。
山本職務代理者	ただ、例えば、四條畷中学校で今、ある教科が5、6時間に1人配置されているとしますと、今後5、6時間に2人配置するかというと、1人でできるということがあります。やはりそういうところは異動ということになりますので、先生方は、教職員人事について、とても不安を持っておられます。
市長	次の諸課題のところにもつながってくるかと思いますが、やはり南中学校で教わっていた生徒達からすると、そこで教わっていた先

<p>教育長</p>	<p>生が行った先にもいるということは大きな安心感につながりますので、そのあたりの配慮を考えていかなければならないと、私としては思います。</p> <p>それは、前回の教育委員会定例会の中でも議論がありました。今回だけではなくこれまでも、教育環境整備計画の時からずっと議論を重ねてきています。</p> <p>市長と最初の総合教育会議の中で、子どもたちの心のケアを最優先に考えていきたいとお話しいたしました。やはり、教職員の異動については、十分配慮していかなければならないと思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>わかりました。</p> <p>先週、4月12日には教育委員会の皆さんの中で休校にするという合意が図られたということですので、私としては大丈夫です。</p>
<p>政策企画部長</p>	<p>只今の教育委員会からの報告を受け、3点目の四條畷南中学校の休校に伴う諸課題についての整理内容の共有及び意見交換をお願いします。</p> <p>まず、教育委員会から、4月12日の議論で抽出された諸課題についての報告をお願いします。</p>
<p>教育長</p>	<p>4月12日に出されました諸課題につきましては、この会議だけではなく、これまでの教育環境整備計画を策定する過程の中でもそれぞれの課題を把握してまいりました。またその対策についてもどう講じていったらいいのか、議論を重ねてきました。</p> <p>今回、休校という形で決定しましたので、それも考えながら、以前の部分と重なるところもありますけれども、そのことも含めつつお話しさせていただきたいと思っています。</p> <p>まずは、統合前の生徒間の交流をしっかりとしていかなければならないということが1点。</p> <p>それから、南中学校生徒の負担軽減のために教職員の人事異動について配慮をするということが1点。</p> <p>それから、南中学校にあって四條畷中学校にないクラブ活動の考え方をどうするのか。</p> <p>それから、以前から議論に必ず出てきております、通学路の安全対策について、防犯カメラの設置や街路灯のLED化、また現在小学校では学校安全協議会の受付員さんに校門での受付員をしていただいておりますけれども、それ以外の危険箇所への人的配置、あ</p>

	<p>るいは、道路の安全性を確保するためのグリーンベルトの整備、こういった課題です。</p> <p>通学路の遠距離対策にスポットを当てると、自転車、バス、電車での通学はどうか。事務局から費用を示してもらいながら議論を重ねてきました。</p> <p>それから、今年は南中学校の1年生が、去年は2年生が制服を購入しました。この1年生、2年生については平成30年度の4月にはどちらの制服を着ても良いと言っているものの、やはり四條畷中学校の制服を購入するという場合には、何らかの支援を考えていかなければならないという点です。</p> <p>ざっと、以上のような課題が議論されてきております。</p>
<p>政策企画部長</p>	<p>教育長から「休校」に伴う諸課題の報告がありました。以降、この諸課題をベースに意見交換を行っていただきますが、よろしいでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>3月16日に南中学校の1年生の保護者の方を中心に意見交換をさせていただいて、同日に現役の南中学校の1年生の生徒とも意見交換を行いました。</p> <p>そして昨日の夜に、南中学校の現1年生の保護者の方、昨年度は南小学校と東小学校の6年生の保護者だった方と意見交換を行いました。</p> <p>その中で、やはり毎回いただく意見は異なります。例えば、昨夜も結構な時間の意見交換をさせていただきましたが、今おっしゃった制服の話は、一度も俎上には載りませんでした。</p> <p>遠距離化に伴う移動手段についても、3月16日の意見交換では自転車が良いのではないかという意見が多数ありました。一方、昨日の意見交換会ではバスを希望している方が多いという印象でした。また、生徒からはバスという言葉はほとんど出ず、自分たちでルールを決めるから自転車が良いという意見もありました。</p> <p>やはり聞く相手が、生徒なのか保護者なのか、また安全に通ってほしいという地域の方々的心思もありますし、いずれにせよ皆さんとも子どもたちにより良くしよう、という思いですが、それぞれ考えが違うということがあります。そういった点をどのように整理していくかが一番重要ですし、慎重に判断していかなければならないところかと思っています。</p> <p>昨日、これは私の想像力が足りなかったと反省したのですが、卒業時における学校のアルバムの話がありました。現在の南中学校2</p>

	<p>年生の生徒にとっては、1年間だけしか四條畷中学校で過ごさないというところで、アルバムとして南中学校の行事等が写る分量が減ってしまうのではないかという不安の声があるということです。アルバムとしては南中学校、四條畷中学校両方の行事を載せるような分量を考えられないかという話があって、これは私としても視点として完全に欠如していたので、この点もやはり一定、大事な思い出ですのでしっかり検討していかなければならないと思います。</p> <p>私も時折、本棚を整理していたら読み返すようなことがありますので、本当に大事なことだと感じます。</p> <p>ちなみに、教育長がおっしゃった費用の計算とは、手元にある資料のことですか。</p>
教育長	<p>3月16日の保護者との意見交換会には私も同席しておりましたので、あの場では自転車通学が主流を占めていたと記憶しております。そこで、自転車通学を最上段に置いて、事務局にお願いして資料を作成していただきました。バス通学や電車通学については教育環境整備計画の時点で議論にあがっておりましたので、参考資料として、あわせて載せていただいております。</p> <p>そして、その次の資料が制服についてです。</p>
市長	<p>これは、仮にすべてを100%負担した場合としての計算に基づいているということですね。</p>
山本職務代理者	<p>バス通学につきましては、路線バスを利用した場合について掲載しています。前回の教育委員会で私のほうから、スクールバスにした場合はどれくらいになるのかという試算もしてほしいと事務局にお願いしました。それはまだ出ておりません。</p>
市長	<p>このバスは、既存の路線バスを利用した場合ということですね。</p>
教育長	<p>現在、これら諸課題については継続審議ということにさせていただいております。できるだけ早い時期に一定決めていかなければ、保護者や生徒の方々に不安や負担があると思います。</p> <p>ただ私は、四條畷中学校については、ファミリーマートのある信号のところからグラウンドに達するまでの坂道を考えたときに、結構な労力が必要と考えています。そのときに、例えば雨の場合や、クラブに入っている生徒が、学校の日常の教科書類に加えてクラブ</p>

	<p>のユニフォームなど必要なものを持って通う場合、やはり自転車では不安定ではないかと思えます。上り坂もそうですが、特に下り坂では余計にと思えます。そのことも考えて、共有棟やクラブ室の整備などを行ってきたのですが、自転車通学についてはその時点で想定していたかどうかというところがあります。</p> <p>ただ、やはり距離の部分というのも悩ましいところで、3月16日の現2年生の生徒たち、保護者の方々の思いを考えると、一定のところまでは自転車通学を認めるというのも、これから議論を重ねながら、一番良い方法を探っていきたいと思っております。</p> <p>私の理解が正しければ、いま挙げていただいた多くの課題は、もともと平成27年3月の教育環境整備計画の時点に至るまでずっと議論がなされてきたことだと思います。その間で、例えば制服、校区、通学に関して、長い時間で議論を積み重ねてきていただいた部分があり、それをベースとして最終的な判断につながっていくものだと思います。</p> <p>重ねてきた多くの議論の上で、新しく保護者の方や生徒からいただいた意見を混ぜ合わせた形でどのように結論を出していくのか、いま職務代理がおっしゃったように、これをしたらどうなるのか、例えばスクールバスを実施したらどうなるのか、といった色々な案をもう少し出す必要があると思えます。議論の粒度を細かくしていただいて、結論を出していくということです。</p> <p>いずれにしても費用負担というところで予算の部分については、低い金額ではないと思っております。ただ、私の現時点の考えとしては、これは経年で毎年発生する予算というよりも、一時的に発生する予算だと考えています。これは、しっかりと議論を深めていきながら、どこまでならば負担できるのか、あるいは周りの地域の方と比べて、例えば、なぜ彼らだけ新しい制服を買ってもらえるのかといった声も当然出るかと思っておりますので、そのあたりも整理していきながら、予算については考えていきたいと思っております。</p>
<p>市長</p>	<p>今、市長がおっしゃったように、ここに挙げられている課題はすでに平成27年3月の時点である一定の整理がされているものです。</p> <p>自転車通学に関しては、学校審議会の中でも話がありましたけれども、やはり地域住民の反対がとても強い、反対の一番大きな理由は、中学生が加害者になってしまう可能性が大きいということで、そういうことがわかっていながら、便利さだけで認めるということ</p>

<p>市長</p>	<p>はないということもありましたので、それについては電車やバスなどの公共交通機関の利用を勧めるほうが学校教育としてはいいだろうというのが一定の線です。</p> <p>あるいは制服に関して、新しく買い換えて揃えるわけだから、全額でなくともある一定の補助はしなければならないけれども、それは予算化が伴うため、教育委員会が決定できることではありませんでしたので、そういったところの一定の議論はしてきました。その時はまだ何年か先のことでしたので、直近に迫ってきたことによって、新たな課題は出てきているかと思えます。それは検討していかなければならないと思っています。</p> <p>来年のことですので、保護者の方にとっては早く、本来であれば4月、5月、6月、一学期の間で結論を出さなければならない問題ではないかと思っています。</p> <p>私としても、今、山本職務代理者がおっしゃったとおり、決定していく時期については早期だと思っています。</p> <p>大きな方向性はわかった、納得できない部分はあるけれども、そういうふうに進めていくなら一定の理解はするといった形で受け止めていただいた方にとっても、他の諸課題はいつわかるのかということとは大きな関心事ではないかと思えます。</p> <p>特に、色々な諸課題があるなかで一番強く感じるのは、安全のところですね。つい先日も痛ましい事件がありましたので、ではいざ防犯カメラをつけるにしてもどこにつけるのか、おそらく保護者の方はそこまで示してほしいと感じているという感覚があります。通学方法自体による安全性の問題もありますけれども、近い生徒であっても新しく通るルート安全性はどうなっているのか、遠距離化になって遠い子どもたちだけではなく新しいルートを通る子どもたちのことも、しっかりと考えなければいけないと思います。これが一番、肌で感じていることです。</p> <p>2点目は、校区についてです。四條畷中学校よりも西中学校の方が近いから西中学校に行きたいという声は意見交換会でも毎回出てきます。これについてもスピード感を持って整理していかなければ、ずっとどちらなのかわからないというのでは負担が大きいと思っています。</p> <p>諸課題が挙がってきている中で、今後の時期的なところについてはどのように考えておられますか。</p>
<p>教育長</p>	<p>平成30年の4月までという考えはあるのですが、それを昨日</p>

<p>市長</p>	<p>の意見交換会の中でお答えしたら、それでは遅いのではないかと、もっと早くというご意見をいただきました。ですから、どれがいつまでにとというのは今後詰めていかなければならないのですが、やはり安全面については、できるだけ早い時期に一つひとつ、片付いたらその都度、と考えています。また予算が伴う場合にはこのような総合教育会議の中で市長と意見交換をし、他の委員さんの意見もしっかり聞いていただいて、教育委員会で決定していきたいと思えます。</p> <p>昨日の意見交換会で多かったのは、いつごろに何が決まるのかを教えてくださいというご意見。色々な観点があって、幅広い議論が必要なので、拙速にとというのは難しいと思うのですが、なるべく教育委員会の皆さんで、そういうスケジュール感を事務局と検討しながら進めていただければ一番、保護者の方にとっても負担感が少ないのではと思います。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>市長が色々な場で意見交換を行って来て、対象によって答えが違うという話がありました。最終的な決定をするには皆様の意見を聞く、そのたびに自転車であったりバスであったり、そういったニーズが違うということで、なかなか決定づけることが難しいのではないかと印象があります。色々議論をしていくけれども、決定づけるのは何が決め手なのか。</p> <p>前回、市長が意見交換を行ったのは、現在2年生、3年生になる方の保護者の方です。その方々は子どもが自転車に乗ることに関しては不安をあまり感じない方々だったかもしれません。</p> <p>今回の意見交換では、バスを希望する意見が多かったということは、子どもが小学校を卒業して間もない保護者の方々は、自転車に関して少し不安を感じているということではないかと思えます。</p> <p>そういう面からしても、意見をずっと聞き続けて終わりが見えないのではないかと思えます。</p> <p>何が良いかというのは正直なところ決め手が無いので、一つの案としては一度全面的に禁止をして、どうしてもこうしたい、という方達の意見を吸い上げるという形もあると思えます。</p>
<p>市長</p>	<p>禁止という言葉にはとても強い印象を受けるのですが、原則的には徒歩であるという意味ですか。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>はい。</p>

<p>市長</p>	<p>たしかにそういう考え方もあると思います。現在、中野新町の生徒は原則的には四條畷中学校に通えるけれども、特に要望がある場合は西中学校にも通えるという状況になっています。それはやはり、個別の事情があると思います。近いから西中学校が良いという場合もあれば、友達と一緒に四條畷中学校に行きたいという子もいると思います。</p> <p>そういう、原則を決めて個別の事情がある場合に対しては、別のアプローチをするという考え方は、私としては現時点が変遷期、過渡期にあるので有効な考え方の一つだと思います。ある日突然、この日から全部これにきなさい、という竹を割ったような考え方ではなく、なるべく個別に柔軟な対応をどれだけとっていけるのかというのは、これから対応していく上での原則的な考えにつながっていくものと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>昨日、意見交換で挙げた意見の中では、やはりしっかり決めていかなければならないと思ったのは、先ほど市長がおっしゃった校区の問題です。中野新町のその部分で、原則論はあるけれども、その中で希望を聞いていきましょう、となっています。同じような意見が昨日も出されました。これについて、我々も今日の資料に入れてほしいと言いまして、この地図があります。</p> <p>今、四條畷中学校の校区で一番遠い子どもたちは新池の近くのあたりから通っているのですが、ここから実際に私も歩いてみまして大体30分近くかかっていました。1.8キロメートルあるかないかくらいです。この距離で四條畷中学校を中心にコンパスのように点線で円を描いてみますと、このようになります。</p> <p>この点線の円からはみ出ている地域の子どもたちについては、やはり真剣に、慎重に、しっかり考えなければなりません。安全面もありますし、それから心的な負担もあるでしょうし、色々な要素が考えられます。</p> <p>ただ、校区をすべて選択性にすると、次の年の生徒数によって先生の数が変わる可能性が考えられます。これまで聞いてきた意見ではクラブの顧問の先生にそのまま指導してほしいという声がありましたが、教科の関係もありますし、そのとおりにいくかどうかという難しさがあります。そのあたりもしっかりと議論しながら、できるだけ早く、何らかの形で一定の結論を出していかなければいけないと思っています。</p>

<p>市長</p>	<p>意見として多いのは、楠公のあたりからは距離があるというということで、これは事実だと思います。距離としては西中学校のほうが近いのも事実です。</p> <p>ただ、自治会の方だけではなく保護者の方からも声が挙がっているのは、育成会が分かれてしまうことに対する負担感です。コミュニティという観点が必要です。</p> <p>もちろん、逆のご意見もあって、別にそういうことは気にしないという方がいらっしゃるのも事実ですので、ここをどう整理していくのが重要だと思っています。</p> <p>これ以外にも多くの方のお声があるのは、今、円を描いてくださっているのですが、これは直線距離です。四條畷中学校について議論するにあたっては、やはり坂道であるということが必ず俎上に載ります。そういった点で、直線も当然、おおよその位置把握としては大事だと思うのですが、上り坂をどう考えていくかというのも検討の余地があると思います。</p> <p>それから、私が聞いている限りでは、四條畷中学校と南中学校の生徒間の交流というのは深まっているかと思うのですが、これは南中学校の生徒が四條畷中学校に行ったということですね。</p> <p>私が意見交換をさせていただいている中では、四條畷中学校の生徒が南中学校へ行くという機会があってもいいと思っているのですが、そういった議論はされているのですか。</p>
<p>教育長</p>	<p>一応休校という部分について、これで決定しましたので、それに伴い、平成30年4月にスムーズに転籍できるような形を取りたいと思っています。四條畷中学校では昨年度の3月に交流をさせていただきましたけれども、この一年については、同じような取組みを南中学校でもやっていただければと思います。</p> <p>具体的に言いますと、例えば南中学校には体育大会のお昼に応援合戦があり、5クラス、6クラスとたくさんの生徒がいた時には非常に壮大な、名物の行事でした。また四條畷中学校ではウルトラ二人三脚が、聞くところによると市長が発案されて、今も続いているということです。</p> <p>この応援合戦を大事な思い出として、先輩たちが受け継いできたものを廃らせることなく、行事を活用しながら南中学校発信で交流ができればと考えています。</p> <p>それについては、校長先生に働きかけて、また職員で子どもたちがスムーズに転籍するためには何を用意したらいいのか考えて、ま</p>

<p>市長</p>	<p>た、生徒会中心となってという行事もありえると思います。</p> <p>わかりました。</p> <p>それから、広報誌は全戸配布されているものですので、基本的には広報誌を通じて市民の方に知っていただくというのがあるのですけれども、今のところ、広報誌に掲載されるのは、総合教育会議で話し合われた内容だけです。</p> <p>諸課題について整理していくという表現が掲載されたときに、市民の方にとっては、「諸課題に私がこの間言った意見が本当に載っているのか？」というところが不安だということがあります。議論がその時にされているのだろうか。ですので、今のところは教育委員会として、また事務局としても、議論が本当になされているのだということ、積極的に当該地域の方に知っていただく、これは校長先生を通じてということもあると思いますし、行政のほうで、という形も当然あると思いますので、より精度を高めていくことが必要です。</p> <p>やはり、わからない、知らないということが一番不安につながるのではないかと思います。工夫をしながら進めていければと考えています。</p>
<p>教育長</p>	<p>本当に、周知は特に重要だと考えています。昨日もそのような意見が保護者の方からありました。「私たちはこのように市長とやりとりをして、市長の考えが理解できました。ただ、今日参加していない方、あるいは、小学校6年生の方にも、市のほうから対象世帯にしっかりと知らせしてほしい」ということです。</p> <p>何らかの他の方法、学校を通じて保護者へ行き渡るような方法も考えていきたいと思っています。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>学校に行っていて、色々とお話ししていただいているのは、保護者の方にとっては、とても安心だと思います。直接お話ししていただけることはとても良いという印象を持っている、という意見を聞いています。</p> <p>今後どのように対応していただけるのか、それから今もちょっと止まっているのかもしれませんが、記念行事の委員会の方たちも大変な思いをして今年度は活動をしていらっしゃると思いますので、そちらのほうも考慮していただきたいと思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>いずれにせよ、一度休校という形で学校が休みになって、生徒が</p>

<p>大村委員</p>	<p>そこからいなくなるところにおいては、一定の節目であると思いますので、いま進めてくださっているそういった事業においても、皆さまとの対話を引き続き行う中で深めていけたらと思います。</p> <p>いつも意見交換会が終わって、出て行くまでの間に個別でお話しをしたいということで伺っている中で、やはり多いのが、「これ、次はいつあるの？」というお声です。私としても継続的に、決まった事を私からお伝えする、あるいは教育長からもお伝えいただく、こういうことを本当に継続的にやっていく。</p> <p>スケジュール感についても、どれくらいまでに何をしていくかというのをしっかりと定めた上で、この日にはこれ、というのを予め早い段階で周知できていれば参加できたのに、という方もいらっしゃると思うので、そこは工夫してやっていければいいと思っています。</p> <p>市長が直接出かけていただくというのはとても大事なことだと思うのですが、すべての機会、すべてを市長が対応するということは不可能です。</p> <p>私は、各学校の印刷物でお知らせしていくということや、議員さん方も各地区から出て来られているわけですから、そういった市民の方とのパイプを色々な形でうまくつなげていくということのほうが良いと思います。市長が出て行かれるというのは、各地域で年に1度は、ということならば大切ですが、「市長に言わなければ」というような、いわゆる直訴だけでなく、これくらいの規模の市ですし、色々な形で活用できるような動きを行政としては考えていくことのほうが大事ではないかという気がします。</p> <p>それから、学校の中で保護者の方の意見の集約というのが以前に比べて本当に難しくなっています。というのは、学校が企画するいわゆる懇談会を月1回や2か月に1回実施したとしても、クラスで一桁台の人数しか集まっただけないという現状があります。そういうことも知っていただきたい。そういうところにもたくさん来ていただけるような形にしていけば、市の方針、教育委員会の方針についても、お話しする機会ができてくると思います。</p> <p>ですから、今あるものを活用していく、活性化するということがとても大事ではないかと思います。出前的なものだけではない形を、若い市長さんだからこそ、考えていただけたらと思っています。これは、教育のことだけに限りません。</p>
<p>市長</p>	<p>本当に、おっしゃるとおりだと思います。身は一つで、市におい</p>

	<p>でも取り組むべき色々な課題がたくさんある中で、全部が全部というのは時間的な制約もありますし、直訴という表現をしてくださいましたけれども、それしかルートがないというのも、それはむしろ脆弱だと思います。やはり幅広いところからお声を伺おうと思ったら、その機会にしか意見を聞いてもらえないのか、というほうが脆弱だと思いますので、今おっしゃったように裾野の広い形でなるべく多くの方のご意見をいただけるような形、そして説明させていただけるような形を考えさせていただければと思います。</p> <p>ただ一方で、昨日も実際にあったのですが、「紙で読んで事象は理解している、何がこれから起きて何が決定されたのかは理解しているけれども、やはり市長の実際の声で聞いたからこそ、納得はいかないけれども理解する」と言ってくださった方がいるのも事実です。やはりそこは、選挙で選んでいただいた身でありますので、説明を自らの口でさせていただくということは、市長である限り果たさなければならない仕事です。重要な機会や、節目の大きな決定にあたる部分については、自らの声でも説明していくということは、今後も継続的にさせていただきたいと思います。</p>
大村委員	<p>生の声ということですね。</p>
市長	<p>はい。広い、色々な形でというのも同時にやっていながら、重要なポイントでは自分の声でも言わせていただきたいと思います。</p>
山本職務代理者	<p>今は休校に伴う諸課題の話になっていますが、視点を変えて私の考えを述べさせていただきます。</p> <p>南中学校と四條畷中学校については、現にある四條畷中学校に南中学校の生徒が行くという発想になっています。たしかに先ほど教育長がおっしゃったように、伝統的な生徒の行事であるとか、そういうものは学校の中で解決できると思います。</p> <p>今この機会に、四條畷ならではの教育の中身を考えるべきではないでしょうか。</p> <p>環境が変わることによって、そこに行くと良かったと、四條畷中学校の生徒さんが、南中学校の生徒さんが来てくれて良かったなど感じてくれるような教育環境をつくらなければならないと思います。それは何かというと、現の教育とは違う中身、教育内容を生徒に与えていくことが必要ではないかということです。そうすることによって、不安感が払拭されると思います。それをしようと思うと、</p>

	<p>お金をかけなければならない部分も出てくるかと思えます。</p> <p>一つは、不安を拭うために、教育相談など、メンタルの部分におけるサポートを行うこと、現行、スクールカウンセラーを配置していますが、それをさらに手厚くしていくといった方策、あるいは、先ほど教職員人事の話がありましたけれども、枚方市、交野市、門真市など、他市は市費で教職員を増やしているところもあると聞いています。それぞれ課題がありますからそういうことをやっていますけれども、今、再編する中で、他市に行かなければいけない先生方を本市で抱えるということにもなりますので、そういった方策です。</p> <p>また、はじめに言いましたが、教育内容。今、理数が非常に弱いと言われていています。小学校では一部、忍ヶ丘小学校で理科の専科の先生が配置されているということもありましたので、そういった中学校の教育内容を充実させる方策です。</p> <p>これらはいずれも教育委員会で考えますが、予算を伴いますので、そういうことを制度的に保証していくということが、来年の4月以降の学校においては、子どもたちの大きな不安感を払拭することになるのではないかと個人的には思います。そういうことにも理解を示していただけたらありがたいです。</p> <p>本当におっしゃるとおりだと思います。やはりハード面の整備だけではなくて、いかにソフト面も充実させていくかというところが、取り組むべき大きな点だと思います。</p> <p>私としても、教育が、今後、四條畷市が活性化あるいは発展していく上で外せないポイントだと認識していて、より意欲を持って取り組んでいきたいと思っています。議会の方々と議論を重ねながら予算措置についても考えさせていただければと思います。</p> <p>ここは、決定機関ではないので、感じたことを言わせていただきたいと思えます。</p> <p>先ほど大村委員がおっしゃったことは、これからの四條畷のありようを考えると、本当に納得のいくご意見だと思います。また、市長がおっしゃった、フェイストゥフェイスで、たとえ一人であれ二人であれ、自分でちゃんと説明して、それを喜んでくれる人のために動きたいというお気持ちも本当によくわかります。</p> <p>今回、5000人の方にアンケートをする、それ以前にかなり時間をかけてここまで汲み上げてきた中で、それが周知されていないということがあります。一応、成熟した市民の皆様ということを頭</p>
市長	
原委員	

<p>市長</p>	<p>に入れて、5000人の方にアンケートを実施する。事務局が頑張っても、ホームページや広報にしても、関心があつてこそ、そこを開いてみるとか、技能も必要でしょうけれども、時間があるとか、やはり受け手の、市民側の知りたい気持ちがもしそこに関わっていかなければ、さあ聞け、ということではできません。</p> <p>一応、こうやってお知らせしたとしても、それでも周知ができていないというご指摘があるとしたら、非常に難しいことだと考えています。</p> <p>保護者にしても中学生のお子さんにしても、面と向かって色々な意見が出てきたときに、やはりそれぞれの考えを真摯に受け止めて、幅広い視野で成熟して考えたり、答えられたりする力があれば、きっと伝わるのだらうと切に思います。誰もが、四條畷の教育を良くしたいという、四條畷市民の立場に立って豊かになっていきたいという、同じビジョンを持っているのだと思います。</p> <p>市長が先ほどおっしゃったように、期限を決めて答えをだすということの難しさを、正直、私は自分の力量不足だらうと思うのですけれども、とても感じます。</p> <p>でも、未来のために、今抱えていることをなんとか進めないといけないと思います。</p> <p>色々な場で、一つに決めるということの難しさを痛感しています。</p> <p>全員に良いと言ってもらえるような結論を出すのはやはり難しいと思います。ただ、なぜそうするのか、なぜこのような選択肢をとって進めていきたいと思うのかを、胸を張って説明できないままだと、市民の皆さんにとっても疑問が残ってしまう結論になるかと思っています。</p> <p>四條畷市のこれからのまちづくり、そして教育をより良くしていくという観点で、行政側と市民の間に疑いが残ったままでは、より良く発展していくことは難しいと思います。そうではなくて、納得はできないけれども、そういう説明であれば受け入れられるという、そこまで行政サイドとしても考え抜いて説明できるかというのが一番のポイントだと感じています。</p> <p>総合教育会議の頻度が高くなってしまっており、お忙しい中にもかかわらずこのように集まっていたり、また教育委員会臨時会を開いていただいているなど、多くの機会を設けていただいていることに感謝しています。これから諸課題を解決する上で、先ほど山本職務代理もおっしゃっていましたが、予算を伴うこともたくさ</p>
-----------	---

<p>政策企画部長</p>	<p>んあります。そして、教育的観点で判断をしなければならないこともあると思いますので、今後ともこのような形で、議論を密にさせていただきながら、前に進めていけたらと思っております。何卒よろしく願いいたします。</p> <p>今、予算のお話がありましたけれども、スケジュールに関するところで発言させていただきます。</p> <p>4月にスムーズな対応を行うために必要な予算を検討されるということですが、遅くても12月の議会での補正予算ということですが、内部調整を図っていかなければならないと、事務局としては認識しております。</p>
<p>教育部次長兼学校教育課長</p>	<p>私からは、学校の方の立場からお伝えいたします。</p> <p>先ほどから出ている「いつごろまでに」というのは、南中学校に現に通っておられる生徒さんや保護者の方々のお気持ちも汲みますと、できるだけ早くということになるのですけれども、今、議論を慎重に進めていただいている中で、送り出す側、受け入れる側の学校の管理職や職員との調整も含めて、遅くても10月ごろには今の検討内容について、一定の整理をしていかなければならないと考えております。</p>
<p>市長</p>	<p>遅くても、という考えは重要だと思います。議会の方々との議論も非常に重要になってくるので、その時間が十分に取れないということは、私としては違うと思っております。なるべくゆとりをもって決めて、やはり議会の皆さんと議論する時間もしっかり確保していくということが、必要になってくると思います。</p> <p>たしかに今、事務局から挙げていただいた色々な観点から慎重な議論がいるということは、私も肌で感じているところではあるのですが、それでもやはり議論の密度を高くして、ここから数か月進めていけたらと思っております。</p>
<p>教育長</p>	<p>これまでの教育委員会の中でも抽出されてきた諸課題については、これからも継続的に審議していきましょうということ、先日の教育委員会臨時会で確認したところです。</p> <p>今の流れの中で、来年の4月にスムーズに行くために、学校との調整の期間、あるいは予算のこともありますので、もう一度しっかり検討しながら、できるだけ早く進めていきたいと思っております。</p>

<p>政策企画部長</p>	<p>今、意見交換をしていただいた中で、諸課題について早期に解決しなければいけないという認識のもと、特に通学路の安全対策についての課題があります。また、通学距離や、坂道などの地形にも配慮した校区再編の整備についても早期に結論を出さなければいけないという認識でございます。</p> <p>また、生徒間の交流ということで、両校の伝統、取組みを尊重しながら、引き続き行っていくとございまして。</p> <p>これらの諸課題への取組みについて、効果的に周知を図っていくという観点から、広報誌やホームページの他、これまで実施してきた市長との対話も行いながら、学校を通じた保護者への周知なども検討していく、また、教育課題、教職員の人的配置、学力向上といった諸課題に対応した教育内容の充実を図ることによって、子どもの負担軽減につながるのではないかとということで、ソフト面についても重要視していくという意見交換がなされたことと思います。</p> <p>このような認識でよろしいでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>今、「早期に」という言葉が何度か出たと思うのですが、早く決めるということも大事ですが、早さにこだわって拙速になってもいけないと思います。議論の密度を高めて、早くするけれどもしっかりと議論する、これを両立させながら進めていきたいと考えています。</p>
<p>教育長</p>	<p>3月16日、昨日の保護者との意見交換の中で、我々が今まで課題として挙げてきたものに加えて、新たな視点の提示があったかと思えます。そのあたりのことをもう一度整理しまして、慎重に議論しながらもできるだけ早い時期に進めていきたいと思えます。</p>
<p>大村委員</p>	<p>保護者と話をする、学校側の管理職や職員とも話をするということでした。市長がおっしゃった卒業アルバムの話がありましたが、現場で実際に卒業アルバムを計画してくれている職員たちがどんなふうに考えていくのか、どうするのが一番良いのか。それから自転車についても、今、目の前にいる子どもたちが自転車通学をすると考えたときにどうなのか。教育委員会としても事務局としても、校長会などもありますので、意見を吸い上げていただいていると思うのですが、吸い上げているということが目に見えるような形での周知の仕方を考えていただければ、現場の声が明確に反映できるのではないかと思いました。</p>

<p>政策企画部長</p>	<p>周知について、教職員の意見を吸い上げているというところも含めて、ということですね。</p> <p>以上でよろしいでしょうか。</p> <p>本日の1点目、2点目については報告事項、3点目については意見交換でございました。</p> <p>1点目の小学校再編にかかるアンケート調査については、教育委員会の今後の検討ベースとなる位置づけであること、また回収率を上げるという趣旨のもと、5月22日を期限として実施するというを確認いたしました。</p> <p>2点目の一時閉校または休校につきましては、休校とするという教育委員会の判断をこの場で共有いたしました。</p> <p>3点目につきましては、先に申し上げた内容かと思えます。諸課題については、対応策を示すために、引き続き検討を行うということです。また、学校との調整期間や予算のことを考えますと、遅くとも本年10月ごろまでには具体的な対策を見出していくということかと思えます。</p> <p>全体を通して、これでよろしいでしょうか。</p> <p>先ほど市長から、今後も継続して意見交換を行っていくとご提案がありました。</p> <p>本日の会議を受けまして、多くの諸課題への対応策を講じる必要があるため、市長と教育長と情報共有の上、都度の総合教育会議を開催させていただきますが、よろしいでしょうか。</p> <p>((異議なし))</p> <p>最後に、本会議の内容についての情報提供ですが、5月広報誌では、1月25日と3月1日の総合教育会議の内容を集約の上、本日の内容を併せて掲載したいと考えています。また、議論でもありました「アンケートを実施しています」というお知らせを加えさせていただくということでもよろしいでしょうか。</p> <p>((異議なし))</p> <p>これをもって第1回総合教育会議を閉会したいと思います。本日はありがとうございました。</p>
---------------	--